

教授 青木 孝弘 (Takahiro AOKI)

研究シーズ

【経済・経営・産業】 【社会】 【教育・子ども・心理】

専門

社会起業/地域開発/アントレプレナーシップ

研究キーワード

観光まちづくり/地域産業政策/地域イノベーション/
産学官連携/起業教育/NPO/RMO



研究テーマ

地域創生を導く地域企業・ソーシャルビジネスのイノベーション

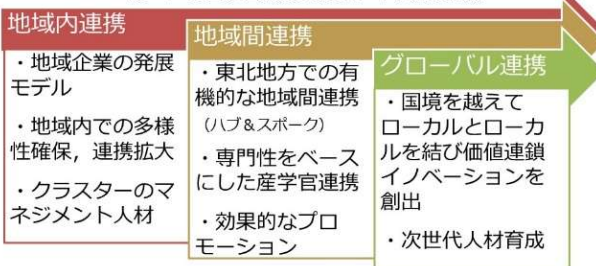
研究の概要

特定の地域に拠点を置き、その地域の優位性を活かして経営を行う地域企業と、社会課題をビジネスの手法で解決するソーシャルビジネスとに着目して、それらがいかんにしてイノベーションを創発するのか研究しています。特に、地域クラスターとの関連性や効果的な産学官金連携のあり方に着目しています。年間15社ペースで地域企業・ソーシャルビジネスを調査して、実践的な知識を蓄積し、その体系化に取り組んでいます。

また近年は、国内外の先進的な起業教育を調査し、地域に適合的なアントレプレナーシップについて探求しています。主なものに山形県内の大学間連携による社会人力育成プログラムの開発（文科省採択）、DX時代の次世代型アントレプレナーシップ教育（JST採択）、グローバル人材育成（JICA東北連携）があります。また山形・福島・宮城東北3県の高等学校と連携して、課題探究教育について実践的な検討を重ねています。

研究の方向性

- ビジョン** 東北の地域企業のイノベーション力を高め、地域経済を活性化させることにより、持続的な地域再生の基盤をつくり、ひいては日本の発展に貢献する
- 課題** DX, ポストコロナ, 過疎地域における地域企業の発展モデルの探求
イノベーションを創発するサポート人材の育成



これまでの主な産学連携, 域学連携, 研修

- 「ICTを用いたグローバルブランディング」
地域や企業の課題に対して、グローバルブランディングの観点から、経営、データサイエンス、デザインなど専門分野が異なる学生を組織化し、世界的なソーシャルリスニング企業と連携して解決策の提案に取り組む
- 「ICTと電気自動車を活用した新たなマーケティングの考察」
地方の若者が多様なファッションに触れることが難しい現状や商店街の衰退という地域課題に対して、日産自動車, 楽天, Zootieと連携して、デジタルフィッティング技術や電気自動車を活用した新たなマーケティングについて実証実験を行う
- 「大学生の力を活用した集落活性化」
会津若松市大戸地区において、獣害対策を目的とした竹林の保全活動、伐採した竹を使ったランタンやストラップ、竹炭づくり、はじめての狩猟セミナーを域学連携で実施する。竹炭を肥料とした野菜の生産販売などを展開中。
- 「会津若松市水道事業に関わる情報発信事業」
水道事業の持続性の確保と水道水の安全性のPRを目的に、活用方法と市民啓発イベントの企画運営を2か年連続で行う。成果として開発した水信玄餅が商品化される。
- 【中・高校生対象】
 - 福島県立茨城高校, 山形県立長井高校での探求型授業での連携
 - 「起業家ってどんな人？」 福島県立安積高校, 下郷町立下郷中学校
 - 「地域を住みよく変えるために」 福島県立猪苗代高校, 同船引高校, 喜多方東高校
- 【行政, 企業対象】
 - 「協働のまちづくりの意義と重要性」 東北地方整備局若手職員研修会
 - 「チームワークとリスク管理」 喜多方労働基準協会

セールスポイント

私は国内外の経営支援組織で多くの経営・創業支援を経験し、また特に南東北地方自治体の観光まちづくりや中小企業振興政策に関する知見を蓄えてきました。これらの実践と研究を踏まえ、具体的な戦略立案から実行支援まで一貫したサポートが可能です。また、少子高齢社会に対応した人材育成や組織開発のノウハウも強みです。

想定される用途・応用例・活用例

- 地域産業政策の評価や政策提言, プロジェクトの共同実施
- 地域イノベーションを促進する人材育成プログラムの開発と実施
- 人口減少や少子高齢化により鳥獣対策など地域が抱える課題に対する産学官連携